

社外秘

2021年度経営計画書



2021年4月1日

一般財団法人こうち文化福祉振興財団

目次

1. 設立背景
2. 活動内容・活動目的
3. ビジョン
4. パートナー別ビジョンと課題
5. ロードマップ（～2026.3）
6. 現状分析
7. 今後の重点的取組み
8. アクションプラン（2021.4～2022.3）
9. 予算計画書（2021.4～2022.3）

1. 設立背景

創業者

- 医療・介護・福祉分野での経営経験
- 高知県への貢献
- 理事長の思いへの賛同
- 新しい形の介護・福祉サービスを提供したい

共鳴

理事長

- 吟詠家としての経験
- 伝統芸能の衰退を危惧、伝統芸能を残したい
- 若者に楽しんでもらう形での伝統芸能の挑戦
- 文化で高知県を豊かにしたい

設立の経緯 (※ホームページより)

当財団設立の背景には、創業者の山本速男が1998年に創業し、営んできたアイ・エム・シーグループの存在が大きくあります。アイ・エム・シーグループは、「医療・介護・福祉分野での社会貢献」を使命とし、20年以上にわたり高知県を中心に、地域との繋がりを大切にする事で発展を遂げてきました。

自身と会社を育ててくれた土地への感謝の想いは、20数年余り経営者人生を送った山本に「ビジネスではない形で高知に恩返しをしたい」という想いを持たせるに至りました。

そのような中、秀鳳流日本吟詠会の宗家である野中秀鳳師範(当財団理事長)の「伝統芸能を後世に残したいという情熱、多くの若者に携わってもらうための新たな挑戦の意思、文化によって地域をより豊かにしたい想い」に共鳴し、「文化と福祉を通じて高知をより豊かにすること」を目的に、当財団の設立へ至りました

理事長挨拶 (※ホームページより抜粋)

我が高知県は歴史に刻まれる多くの先人古哲を育み、これに伴う名所旧跡の多い郷土です。傑出した人物を輩出したこの土壌には、それらを育んだ精神文化、つまり伝統ある芸術文化が存在しております。

しかし、多くの伝統文化は全国的に衰退していると言わざるを得ず、高知県においては後継者不足等により急速に多くの伝統文化が失われつつあります。時代に合わなくなった文化は自然淘汰されて然るべきなのでしょうか。人は失って改めてその必要性や価値に気づくものです。一度失った文化を蘇らせることは簡単ではありません。先人達が大切に紡いできた伝統文化を「価値ある文化」として後世に残すことは、土佐に生まれ、芸と共に人生を過ごしてきた私の使命だと感じております。

我々の事業の1つは、県民が文化に親しめる場を提供することです。伝統的な舞台から敷居の高くない柔軟な舞台や現代文化と融合させた斬新な舞台を提供します。

是非、多くの県民に土佐に存在する価値ある文化に触れて頂きたい。そして、「土佐には今日本で失われつつある精神文化が息吹いている」ということを県内外の方々に知って頂きたい。当財団は、そのための活動を積み重ね、地域文化の継承・創造・振興の一端を担う存在となることを目指します。

2.活動目的・活動目標

【活動目的】

高知県における県民の芸術及び文化活動の振興を図り、個性豊かな地域文化の創造と県民福祉の増進に寄与することを目的とし、次の事業を行う。

- 高知の舞台芸術の振興及び支援活動
- 高知の文化・福祉の振興及び支援活動
- 高知の歴史研究及び普及の支援活動
- その他関連する事業

【活動目標】

- 一般の県民市民が楽しめる舞台芸術のコラボ企画・支援活動
- 若者や学生の活躍できる文化活動の企画・支援活動
- IMCの運営する介護事業所での参加型公演の企画・支援活動
- IMC以外の介護事業所や公共施設での参加型公演の企画・支援活動

3. ミッション

- ① 伝統文化を守る・紡ぐ
 - ・ 「身近な文化」として普及させる
 - ▶ 文化が「超高齢社会、人生100年時代をより豊かにする身近なもの」と認知される社会の実現
 - ▶ 伝統芸能活動に携わる若年層に対する支援

- ② 伝統文化の融合と変革
 - ・ 様々な伝統文化を他の歴史的資源や観光・福祉等の他業界とつなげ、時代に対応しマネタイズすることのできる伝統文化に変革させる
 - ・ 伝統と現代の融合により、次世代にとって魅力的な文化の形を提供することで、世代を超えた文化の継承と新たな文化を創造する

- ③ 文化的要素を加えた福祉サービスの形を普及させることで、高知の福祉サービスの質を向上させ地域の新たな価値創造サイクルを構築

- ④ 文化・福祉を主軸とする独自の視点による街づくりへの貢献

4.ビジョン

市民・県民が財団法人の存在を直接意識することは少ない。

そのため、財団が直接関わることの可能な関係者（=パートナー）に対する活動を手段として、「高知県における県民の芸術及び文化活動の振興を図り、個性豊かな地域文化の創造と県民福祉の増進に寄与する」という目的の達成を目指す。

「収益事業をつくり、文化・福祉分野で高知を豊かにする活動の持続的成長」を目標とする。そのためにはパートナーそれぞれにとってメリットがあり、信頼できる存在となることが重要である。

5年後のこうち文化福祉振興財団

- パートナーにとって「協働するメリットがある」と同時に「信頼できる存在」となっている
- 非営利事業によってパートナーの信頼を獲得し、収益に繋がるサイクルを創出できている

5.パートナー別ビジョンと課題

	5年後ビジョン	
	パートナーにとっての財団の価値	財団とパートナーの関係
アーティスト	<ul style="list-style-type: none"> 財団の活動に関わることで、パフォーマンスの場が増え、芸術活動がより認知される 新たなパフォーマンスが可能になる 今後の活動のためのネットワークが広がる 	<ul style="list-style-type: none"> IMC-LSで催す活動への協力 IMC-PCシルバーマンションの文化的サービスへの協力 伝統芸能とのコラボ企画へ積極的に参加 今後の財団事業の企画・実行へ積極的に参加
行政 (高知県・市町村)	<ul style="list-style-type: none"> 財団との協働やアイデア採用で、これまでよりも評価の高い芸術活動が実現 財団と協働すれば、自分たちの業務負担が減る 	<ul style="list-style-type: none"> 各種発表の場に関して、提供(行政)⇔参加(財団)がスムーズに進められる関係 行政主催文化活動関連で事業を受託 (収益) 文化活動以外でも受託 (収益)
福祉・介護施設	<ul style="list-style-type: none"> 利用者さんへ新たな楽しみを提供できる 企業内では実現できない内容をリーズナブルに 職員の負担軽減 職員も楽しむことができる 施設の文化的特色を創出 	<ul style="list-style-type: none"> IMC-LSの各施設等から文化的催しの依頼 (収益) IMC以外からも増加 (収益)



実現のための必須事項	現状課題
<ul style="list-style-type: none"> アーティストにとっても魅力的な企画や舞台等、やりがいのある場を提供していく アーティスト達の活動に財団が関わる(資金援助含む) 財団アーティストクラブへ会員登録してもらい、パフォーマンス先を紹介する仕組み作り 	企画部門 <ul style="list-style-type: none"> メンバーが業界に不案内 企画段階から密に協力してくれるアーティストや文化関係者が必要だが人脈に乏しい アーティストと施設をつなぐデジタルツールを作り運用するためのノウハウ不足
<ul style="list-style-type: none"> 参加可能な行政主催イベントをタイムリーに把握する 行政との強いネットワーク構築 地域全体の利益と行政の課題解決を兼ね備えた魅力的な提案やイベントを積み重ね、存在感を示す 	財団全体 <ul style="list-style-type: none"> 行政とのパイプが密にできていない 企画部門 <ul style="list-style-type: none"> 行政の求めるものを十分把握出来ていない
<ul style="list-style-type: none"> IMC-LSとの連携強化 現場の状況を優先しながら、各施設に適した企画を提案する アーティストと各施設の関係が良好に進捗できるように調整する 	企画部門 <ul style="list-style-type: none"> アンケートを有効に活用できていない イベント前後のフォロー体制がない

6.ロードマップ(～2026.3)

		～2021.3	2021.4～2022.3	2022.4～2023.3	2023.4～2024.3	2024.4～2025.3	2025.4～2026.3
		【財団】設立	【高知市】西敷地公募	【IMC-PC】 シルバーマンション開設			
アーティスト	芸術集団	・スガさん…「デイラぐるす」オンラインダンス	・公演支援（高知舞台芸術集団）				
	上記以外		・若者への助成金事業実施 ・安藤桃子映画館へのアプローチ ・協力関係となりうるアーティストの発掘・アプローチ	・映画館を利用した文化活動 ・文化を志す若者支援のためのオーディション開催	・福祉と文化のマッチングサービス事業開始	拡大	
行政	市町村	・西敷地サウンディング調査参加	・文化・福祉に関わるサウンディング調査等に積極的に参加 ・次年度の企画・提案 ・ネットワーク拡充	・企画が採用され受託 ・企画実施			
	高知県		・次年度芸術祭等の企画・提案 ・ネットワーク拡充	・企画が採用され受託 ・企画実施			
福祉・ 介護施設	IMC-LS	・IMC施設にアンケート調査 ・オンラインダンス開始	・文化活動提供に好意的な施設から開始し、徐々に増やす	・文化活動提供が軌道に乗る ・IMC職員や利用者さんを招待した施設外のイベント実施		・施設内文化活動提供で新しいジャンルを増やす	
	IMC-PC		・シルバーマンションでの文化活動を具体的に計画 ・協力者ネットワーク構築	・マンション内文化スペースの運用 ・マンション居住者への文化的サービス			
	上記以外				・文化活動提供をIMC以外にも展開	拡大	

7.現状整理

ビジョン実現とロードマップ達成のための具体的取組み策定にあたって、内部状況と外部環境から「強み」と「弱み」および「機会」と「脅威」について整理した。

<p>【強み】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 伝統芸能との結びつき • 野中理事長実績 • 介護・福祉事業との結びつき(IMC) • 県内芸能活動者とのつながり • 提案力、機動力 • 活動コスト低 • 歴史・文化のある南国土佐であること 	<p>【機会】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 行政による民間活用・民間連携が増加 • 社会貢献活動への参加意識の高まり • 他公益財団等による活動（協働・連携できる） • 伝統文化と現代・海外文化との融合事例 • 高知県文化観光部が財団活動に興味示す • オンラインで気軽に利用してもらえる環境
<p>【弱み】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 実績なし • 人員少ない、組織力不足 • 企画部門（伝統芸能に精通する人員なし、若者いない） • 財団活動に共感してくれる芸術集団以外のアーティストを探せていない • 芸術集団との関係性・連携が弱い • 行政とのつながり不足 	<p>【脅威】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 伝統芸能に対して年齢層にかぎらず多数が興味低い • 伝統芸能の担い手不足 • 県、市町村の財務悪化により文化活動縮小の可能性 • 他公益財団等による活動（競合となりうる） • コロナの流行状況悪化により活動が困難になる

8. 今後の重点的取組み

<p>アーティスト</p>	<p>【財団の準メンバー確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 企画段階から参加してくれるアーティストや関係者を企画メンバー個人的人脈からさがして接触する ・ 幅広いジャンルのアーティストに対して影響力のあるキーパーソンとの関係を構築し、更なるネットワークを広げる <p>【公演支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10月の高知舞台芸術集団の公演のサポートを通じて、支援業務の実績づくりとアーティストとの関係を構築する <p>【助成事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学訪問し、助成金支給対象となる学生を選定する
<p>行政</p>	<p>【各団体との関係性構築】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 共同または一部協力させてもらえる他財団法人のイベントはないか情報収集 ・ 各種団体に訪問し、協力関係へ発展を目指す <p>【行政を理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの高知県内での文化的イベントの過去事例(成功or失敗)と県外での事例を調査し、提案や今後の企画に活かす
<p>福祉・ 介護施設</p>	<p>【協力的関係性構築・維持】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施設スタッフとの日常的なコミュニケーションで協力的な関係を構築または維持 <p>【具体的提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者様アンケートが集計でき次第、アンケート結果にそって各施設に適したイベント企画を提案する <p>【アフターフォロー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ イベント開催後にアーティストと施設にアンケート(スマホ入力か直接ヒアリング)をとり、今後に活かす

9.アクションプラン(2021.4~2022.3)

	ゴールイメージ	具体的内容およびアクション	担当者	スケジュール												四半期チェック			
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	1期	2期	3期	4期
アーティスト	積極的協力者2~3名確保 申請を通じて今後の活動協力者も見つける 伝統芸能への理解を深める	個々の既存ネットワークから接点を持つ (リストアップ3月中)	小松・川名	→															
		企画会議の参加を通じて協力関係を構築	全員	→															
		高知県内3大学のサークル活動を見学し、 学生へ助成金の申請を募る	小松	→															
		公演の広報活動	山本	→															
行政	各団体への折衝方針を選定 2~3の団体と協力関係構築 行政への効果的な提案の理解 来年度の参加に繋げる	高知県内団体の情報収集 (リストアップ3月中)	小松・平岡	→															
		各団体へ訪問	小松・平岡	→															
		県内過去事例(成功or失敗)と県外での事例を調査	川名	→															
		財団が関われそうな行政主催イベント(次年度含む)の探索	山本	→															
福祉・介護施設	導入してくれやすくなる 課題発見から次回以降に活かす デジタルツールを駆使した運営ノウハウ獲得 今後必要な運営ノウハウ獲得	施設スタッフとの日常的なコミュニケーション	小松(川名・山本)	→															
		各施設に適したイベント企画を提案/実施	小松(川名・山本)	→															
		アーティストと施設の日程調整	小松	→															
		イベント開催後にアーティストと施設にアンケート	小松	→															
		DX基礎講座へ参加	川名	→															
		DX講座他、各種必要なセミナーに参加	山本	→															